

内閣府政策統括官（防災担当）付参事官（避難生活担当） 殿

新潟県 胎内市

個別避難計画作成モデル事業（市町村事業）最終報告書

令和4年度【内閣府事業】避難行動要支援者に係る個別避難計画の作成の推進において、モデル事業（市町村事業）の実施にあたり、最終報告書を提出します。

【市町村情報、事業概要】

都道府県名 市町村名	胎内市			
所在地	〒959-2693 新潟県胎内市新和町2番10号			
担当部局連絡先	総務課 防災対策係 TEL 0254-43-6111 E-mail protection@city.tainai.lg.jp			
連携部局連絡先	福祉介護課 地域福祉係 TEL 0254-43-6111 E-mail fukuho@city.tainai.lg.jp			
事業概要	都道府県と一体的に行う事業で	ある	○	ない
	<p>当市は、昭和42年の羽越水害から55年が経過し、以来河川改修等によりハード面での安全性は向上しているものの、地形的特性上、楡形山脈周辺の山麓地形部及び胎内川によって形成された低地部もあり、土砂・洪水災害の脅威から高齢者等の避難対応は喫緊の課題である。</p> <p>具体的には、避難支援が必要な者の範囲の見直しや、市として、これまで示してこなかった個別避難計画新様式の検討、地域と福祉専門職と行政の総働で取り組む体制づくりを大切にしながら取組んだ。</p>			
備考				

市町村の事業概要等に関する取組の実施結果】(新潟県 胎内市)

記載項目名	令和4年度末時点の状況																																
【1】 市町村事業名	地域防災と福祉介護の人材の連携による個別避難計画作成実証事業																																
事業概要	個別避難計画の作成を推進するため、 ①災害リスクに対応した避難の優先順位の検討 ②地域と福祉専門職と行政の「総働」により実効性ある個別避難計画作成の体制整備 ※「総働」：地域の全ての関係者が連携し、関係者が得意分野を持ち寄り取り組むことを目指すという意味																																
【2】 事業実施体制 庁内の連携体制	福祉介護課と総務課（防災対策係）が次のとおり連携して本事業を実施																																
	取組	福祉介護	防災対策																														
	研修・人材育成	介護関係者に対する研修	防災関係者に対する研修																														
	対象者の範囲、優先順位	身体、精神、家族の状況の評価	災害ハザードリスクの評価																														
	庁外関係者の連携構築	民生委員、介護支援専門員、相談支援専門員、地域福祉関係者との連携	地域防災関係者（自主防災組織、区長、消防団）及び胎内市社会福祉協議会（地域福祉関係者）との連携																														
【3】 事業実施体制 庁外との連携体制	<table border="1"> <thead> <tr> <th>機関・団体</th> <th>職種</th> <th>役割</th> <th>実行状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自主防災組織</td> <td>自主防災組織、区長</td> <td>災害ハザードリスクの評価 個別避難計画の作成</td> <td rowspan="7"> ・避難セミナーを通じ個別避難計画作成の意義・重要性を周知させた ・4つのモデル集落を選定し、左記関係者と結束して10月以降、モデル集落の計画作成に取り組んだ </td> </tr> <tr> <td>民生委員</td> <td>民生委員</td> <td>個別避難計画の作成協力</td> </tr> <tr> <td>居宅介護支援事業所</td> <td>ケアマネジャー</td> <td>個別避難計画の作成</td> </tr> <tr> <td>地域包括支援センター</td> <td>ケアマネジャー</td> <td>個別避難計画の作成</td> </tr> <tr> <td>相談支援事業所</td> <td>相談支援専門員</td> <td>個別避難計画の作成</td> </tr> <tr> <td>社会福祉協議会</td> <td>地域福祉関係者</td> <td>支え合いマップを通じた計画作成協力</td> </tr> <tr> <td>危機管理有識者</td> <td>新潟大学危機管理室 田村圭子氏</td> <td>専門的な知見による助言</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>7月14日に避難支援セミナーを開催</td> </tr> </tbody> </table>			機関・団体	職種	役割	実行状況	自主防災組織	自主防災組織、区長	災害ハザードリスクの評価 個別避難計画の作成	・避難セミナーを通じ個別避難計画作成の意義・重要性を周知させた ・4つのモデル集落を選定し、左記関係者と結束して10月以降、モデル集落の計画作成に取り組んだ	民生委員	民生委員	個別避難計画の作成協力	居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	個別避難計画の作成	地域包括支援センター	ケアマネジャー	個別避難計画の作成	相談支援事業所	相談支援専門員	個別避難計画の作成	社会福祉協議会	地域福祉関係者	支え合いマップを通じた計画作成協力	危機管理有識者	新潟大学危機管理室 田村圭子氏	専門的な知見による助言				7月14日に避難支援セミナーを開催
機関・団体	職種	役割	実行状況																														
自主防災組織	自主防災組織、区長	災害ハザードリスクの評価 個別避難計画の作成	・避難セミナーを通じ個別避難計画作成の意義・重要性を周知させた ・4つのモデル集落を選定し、左記関係者と結束して10月以降、モデル集落の計画作成に取り組んだ																														
民生委員	民生委員	個別避難計画の作成協力																															
居宅介護支援事業所	ケアマネジャー	個別避難計画の作成																															
地域包括支援センター	ケアマネジャー	個別避難計画の作成																															
相談支援事業所	相談支援専門員	個別避難計画の作成																															
社会福祉協議会	地域福祉関係者	支え合いマップを通じた計画作成協力																															
危機管理有識者	新潟大学危機管理室 田村圭子氏	専門的な知見による助言																															
			7月14日に避難支援セミナーを開催																														
【4】 モデル事業の実施内容、実施方法	1 関係者に対する研修の実施 福祉介護関係者、地域の関係者の連携体制構築及び個別支援計画を作成するための研修を実施 (1) 時期 令和4年7月14日 (2) 内容 避難支援セミナー (3) 対象 自主防災組織、区長、民生委員、ケアマネジャー、相談支援専門員 (4) 講師 新潟大学危機管理室 教授 田村圭子先生 2 地域連携調整会議(9月30日(金)午後1時30分から3時30分) (1) 参加者 モデル集落区長、モデル集落担当民生委員、 <u>ケアマネジャー(居宅介護支援事</u>																																

業所)、地域包括支援センター職員、相談支援専門員(相談支援事業所)、社会福祉協議会地域福祉担当、福祉介護課、防災対策係 ※ はオンライン参加

(2) 内容

- ・個別避難計画作成の進め方
- ・個別避難計画作成の対象範囲
- ・胎内市個別避難計画様式
- ・関係者の今後の取組み

3 個別避難計画の作成

令和4年10月から令和5年1月の間で、4つのモデル集落の個別避難計画を68名分を作成見込みである。

【5】 アピールポイント

地域と福祉関係者の限られた人材の中で個別避難計画の作成、発災時の避難支援体制の構築に取り組むものである。

【6】 事業による成果目標

本モデル事業において、福祉介護、防災、地域の関係者が連携し、災害リスクや身体等の状況を評価し、避難支援が必要な者の範囲・優先順位を検討するとともに、避難支援を実行する自主防災組織等と連携し、継続的な避難支援体制を構築する。

【7】 事業実施スケジュール

(※令和4年8月の新潟県北部豪雨災害により、8月以降のスケジュールを見直した)

取組	内容	実施時期
1 研修の実施	避難支援セミナー	令和4年7月14日
2 地域連携調整会議	<ul style="list-style-type: none"> ・個別避難計画作成の進め方 ・個別避難計画作成の対象範囲 ・胎内市個別避難計画様式 ・関係者の今後の取組み 	令和4年9月30日
3 個別避難計画作成(実証)	モデル集落とケアマネジャー等福祉関係者が連携して計画を作成	令和4年10月～ 令和5年1月

個別避難計画作成モデル事業推進予定のイメージ(修正)



【8】 特記事項

防災担当者がケアマネ研修会(令和4年12月13日及び令和5年2月21日)に参加して、計画作成への協力依頼や、計画作成手順について説明を行った。

応募の要件に関する取組の実施結果 (新潟県 胎内市)

要件	令和 4 年度末時点の状況					
(A) 市町村の防災担当や福祉担当等の関係部署が共同して事業を実施する体制があること。	<p>庁内関係者の勉強会や、避難支援セミナーの開催、ノウハウミーティング等への参加など、福祉介護部署と防災部署が連携して、本モデル事業に参加することができた。</p>					
(B) 地域の介護・福祉に関する職種団体等、庁外の関係者と連携した取組であること。	<p>本モデル事業を活用し、実効性ある個別避難計画が作成できるよう、地域と福祉関係者と自治体関係者の総働による連携体制を整えつつある状況と史料する。これまで、7月14日に新潟大学危機管理室の田村圭子先生による「避難支援セミナー」や、9月30日には自主防災組織、区長、民生委員、ケアマネジャー、相談支援専門員、社会福祉協議会関係者が参加しての地域連携調整会議の開催、10月から1月までの間、モデル集落の地域調整会議を行い、連携を図り、顔の見える関係、取組みの・体制を構築することができた。</p>					
	障害のある人の当事者団体や難病の患者会、支援団体等と連携した場合、その団体等の名称	なし				
(C) 個別避難計画を作成する者の優先度を検討し、要支援者の心身の状況に応じた作成プロセスを構築する取組であること。	住民基本台帳人口 R5年1月31日現在 [人数]	避難行動要支援者名簿に 記載等されている要支援者 [人数 (対人口比)]	個別避難計画作成の 優先度が高い要支援者 [人数 (対人口比)]			
	27,683人	3,484人(12.6%)	346人(1.3%)			
<p>○優先度の考え方の概要 災害ハザード、特に土砂災害警戒区域に居住している避難行動要支援者を優先して取り組む。 リスク別優先順位：①土砂災害、②水害（津波含む）、③地震</p> <p>○要支援者の心身の状況に応じた作成プロセスの概要</p> <p>■ 介護支援施設利用者</p> <p>① ケアマネ、地域包括支援センターと連携し、計画を概成する。 ② ①項により、概成された計画を地域に展開し、避難支援者の選定、避難先等を検討する。 ③ ②項により、必要事項を網羅し、計画完成として、関係者と共有する。</p> <p>■ 介護支援施設利用者以外の者</p> <p>① 地域及び民生委員が連携し、避難支援者、避難先等を検討する。 ② ①項により、必要事項を網羅し、計画完成として、関係者と共有する。</p>						
(D) 個別避難計画を実際に作成し、訓練など実効性の確保に取り組むこと。	個別避難計画の作成の取組方針		作成件数(実績)		作成件数(予定・見込)	
			R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
個別避難計画の様式を作成する上で留意した事柄。(留意したいと考えている事柄。)		先進自治体の様式を例に胎内市バージョンにアレンジして、庁内関係者との協議、地域と福祉専門職との調整会議を通じ、様々な視点を努めて反映した。(地域と福祉専門職に主体性を持たせられるように着意した。)				
(E) これまでにモデル地区などで先行的に実施した取組を市町村内の広い地域で展開すること。	<p>モデル参加自治体の取組みを参考にしつつ、本モデル事業参加により得ることができた個別避難計画作成のノウハウや、地域と福祉関係者と行政の三者総働による持続的な計画作成体制を維持しながら、次年度以降、残りの132集落・自治会に成果を水平展開していく。この際、社協</p>					

	が推進している「支え合いマップ」と個別避難計画の作成を緊密に連携させ、これを推奨していく。						
(F) 作成の優先度が高い避難行動要支援者の個別避難計画の作成に令和3年度から5年間で取り組むこと。	作成の優先度が高い要支援者の個別避難計画の作成の取組方針	作成件数(実績)		作成件数(予定・見込)			
		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度
		0	68	500	1,500	1,000	500
○5年間でどのようにして優先度の高い人の計画を作成するか(取組の概要)							
① 基本的な考え方 (E) のとおり。							
② 取組の概要 (C) のとおり。							

【ステップごとの取組の実施結果】(新潟県 胎内市)

ステップ		実施結果 ◎,○,△,▲	記載事項	記載欄
1	庁内外における推進体制の整備、個別避難計画の作成・活用方針の検討	○	課題	福祉と防災の連携は盤石ではない。互いの理解には温度差がある。
			取組内容 (取組方針)	・ 庁内勉強会 (1回) ・ 内閣府主催ノウハウミーティングへの関係者の参加 ・ 地域連携会議 (令和4年9月30日開催) ・ モデル集落の地域調整会議への庁内外関係者の共同参画
			取組の 成果・結果	上記取組みを通じて、感覚的には少しずつではあるが、相互理解は進んだものと思料。モデル事業参加前までは、ほぼ連携はないに等しい状況であったが、現在では顔の見える関係構築にまで至った。
			理由	防災だけでは進まない庁外福祉関係者との連携や、福祉に関する専門的知見に基づく意見交換など、計画作成のイメージアップが浸透しつつあるため。
2	計画作成の優先度に基づき対象地区・対象者を選定	○	課題	身体的リスクによる計画作成の優先順位は必要なのか。
			取組内容 (取組方針)	10月から1月までの間で、土砂災害・水害ハザードエリア内に位置するモデル集落の計画作成を通じて、「先ずは作れる人から作っていく」という方針で取り組んだ。
			取組の 成果・結果	ケアマネ、地域包括支援センター、地域、民生委員と行政が一体となって計画を作成することで、身体リスクのある方の計画を作成できた。(作成見込みである。)
			理由	そもそも関係者間で情報共有して、真に支援が必要な方に漏れがなければ、あまり身体的リスクに基づく計画作成の優先順位にこだわる必要はないのではないかと考える。
3	福祉や医療関係者等に個別避難計画の意義(目的、制度概要、作成の必要性等)や事例を説明	○	課題	福祉専門職の理解と協力(防災と福祉の温度差)
			取組内容 (取組方針)	・ 避難支援セミナーの開催 ・ 地域調整会議の開催 ・ 10月から1月で、モデル集落の計画作成地域調整会議を開催 ・ ケアマネ研修会への防災部局職員の参加(1月、2月)
			取組の 成果・結果	最初のころは、防災部局による説明や協力依頼など理解されにくいこともあったが、上記取組みを通じて、少しずつ、相互理解と協力が得られる体制や、温度差の解消に近づいていると思料する。
			理由	逃げ遅れをなくすという共通的な目的・目標に向かい、否定ではなく、歩み寄りを肌で感じるとることができるため。
4	避難支援者となる自主防災組織や地区住民に個別避難計画の意義や事例を説明	○	課題	計画作成の取組に向けた地域の理解には温度差はある。
			取組内容 (取組方針)	・ 避難支援セミナーの開催を通じて、計画作成の意義重要性を浸透させる。
			取組の 成果・結果	・ セミナーを通じて、計画作成の意義・重要性については一定の理解は得られたものと見込まれる。
			理由	・ セミナー参加のアンケート結果から肯定的な意見が多く寄せられた。 ・ モデル集落以外でも、セミナー参加を機に、計画作成に取り組んでいる地区もある。
5	市町村における本人の基礎情報の収集、関係者	○	課題	・ 個人情報保護の観点から、関係者間で踏み込んだ情報交換が難しい。
			取組内容 (取組方針)	本人宛にケアマネジャーや相談支援専門員等を介して、計画作成及び情報共有の同意が得られるよう協力依頼書を市

	との事前調整等			から発簡した。
			取組の 成果・結果	8割程度の方から同意を得ることができた。
			理由	日ごろの介護等支援を通じてケアマネジャー等との信頼関係が構築されているため。
6	市町村、本人・ 家族、福祉や医 療関係者等によ る個別避難計画 の作成	○	課 題	計画作成の責任分担が不明確
			取組内容 (取組方針)	・地域調整会議等を通じて、関係者の責任分担や、認識共有に取組んだ。
			取組の 成果・結果	・計画作成フローを作成し、関係者の関わり方や責任分担が見えてきたものと思料する。
			理 由	・口頭説明だけではなく、文字や文書による説明の方が、反応が良かったため。
7	作成したら終わり ではなく実効性 を確保する取組 を実施	▲	課 題	・個別避難計画に基づく避難訓練未実施
			取組内容 (取組方針)	先ずはモデル集落の計画を作成して、次年度以降に訓練を行い、評価・修正を行い、実効性あるものにしていく。
			取組の 成果・結果	当初から今年度はモデル集落の計画作成に専念した。
			理 由	避難訓練の実施までは計画していなかったため。

◎：成果を十分得ることができた

○：一定の成果を得ることができた

△：あまり成果を得ることができなかった

▲：ほとんど成果を得ることができなかった

【事業の類型ごとの取組の実施結果】 (新潟県 胎内市)

事業の類型	実施結果 ◎, ○, △, ▲, - を記載	令和4年度末時点の取組の概要・状況など
(ア) 多様な災害リスクに対応した個別避難計画の作成に関するもの	◎	土砂災害、水害ハザードマップ上に位置する集落・自治会のうち、大小それぞれ規模の異なる4つ集落をモデル集落に選定して、地域と福祉専門職と行政が一体となって、計画作成のノウハウを学びつつ、課題を一つ一つ解決しながら取組み、約68人分の計画を作成見込みである。
(イ) 特別支援学校に関するもの	-	
(ウ) 難病患者等の医療的ケアを要する方に関するもの	▲	市内在住の難病指定者の状況把握まではできたが、個別具体的な計画作成はできていない。今後、保健所と集落・自治会レベルで支援が可能なのか、病院関係者も巻き込まなければならないのかなどを確認・調整しながら取組んでいこうと考えている。
(エ) 防災・減災の整備等と個別避難計画等のソフト事業との一体的な検討に関するもの	-	
(オ) 大学等の有識者等との連携に関するもの	◎	昨年7月14日に、新潟大学危機管理室の田村圭子先生を講師に招きして、避難支援セミナー「災害からの地域の安全・安心を考える～避難行動要支援者との関わり～」を開催した。関係者（区長、民生委員、ケアマネジャー等）に計画作成の意義・重要性を広く周知した。これをスタートラインに、モデル集落はもちろん、その他の集落でも主体的に取組みを始めているところもある。
(カ) 避難訓練や更新等を実施などにより、顔の見える関係性を維持し実効性を確保するもの	-	
(キ) ケアマネ事業所等のBCPとの連携に関するもの	-	
(ク) 施設入所者が在宅に移る場合の施設と市町村の連携に関するもの	-	
(ケ) デジタル技術の活用に関するもの	-	
(コ) その他のもの	-	

◎：成果を十分得ることができた

○：一定の成果を得ることができた

△：あまり成果を得ることができなかつた

▲：ほとんど成果を得ることができなかつた

-：取り組んでいないもの

【研修会や説明会等の講師等の一覧】

氏名	所属・役職	研修会や説明会等	
		名称	概要
田村 圭子 氏	新潟大学危機管理本部危機管理室	避難支援セミナー	区長、民生委員、ケアマネ等を対象に、個別避難計画の意義・重要性を普及

【取組に参画している関係者の一覧】

取組の種類	概要（参加者等）	備考（巻き込む工夫など）
個別避難計画の作成に参画した関係者	モデル集落の区長、地域の役員、民生委員、ケアマネジャー、相談支援専門員、地域包括支援センター、社協	
地域調整会議	同上	
避難支援等実施者	区長、地域の役員、民生委員	
避難支援等関係者	区長、地域の役員、民生委員、ケアマネジャー、相談支援専門員、地域包括支援センター、社協	
避難訓練への参加者、参加機関や団体等	令和4年度は、避難訓練未実施	
その他	なし	

【人員の確保状況】

個別避難計画の作成に関する人員体制			
部署名：防災対策係	専任（名）	常勤：3	会計年度任用職員：
	兼任（名）	常勤：	会計年度任用職員：
部署名：福祉介護課	専任（名）	常勤：5	会計年度任用職員：
	兼任（名）	常勤：	会計年度任用職員：
部署名：	専任（名）	常勤：	会計年度任用職員：
	兼任（名）	常勤：	会計年度任用職員：

【予算の確保状況】

個別避難計画の作成に関する予算	
令和3年度決算額	¥0
令和4年度決算見込額	¥0（モデル事業で¥816,000配分受け）
令和5年度当初予算額	¥330,000を計上中（予算書の写しなし）
特に予算措置なし	－
（参考）避難行動要支援者数（人）	－

※避難行動要支援者名簿や個別避難計画に関する予算がある場合、予算書の写しを添付してください。（公表されているもの）

【個別避難計画の周知、普及・啓発等のために作成したもの】

媒体の種別	実施内容の種別	概要 (タイトル、URLなど)
紙媒体	広報誌	なし
	チラシ	なし
	ポスター	なし
	町内会や自治会などへの回覧物	なし
	リーフレット	なし
	その他	なし
電子媒体	動画	なし
	広報誌	なし
	SNS	なし
	ウェブサイト	なし
	広報番組	なし
	その他	なし

【個別避難計画作成の取組のイメージをつかむのに役立った報道や講演などの動画や資料など】

- ・NHK「個別避難計画高齢者・障害者を助けるために」明日をまもるナビ(2022年6月16日)は、地域調整会議で、特に集落の役員等にイメージアップさせるのに大変役立った。
- ・萌書房「誰一人取り残さない 防災のための、当事者力 アセスメントの進め方」(立木茂雄先生監修)は、ケアマネジャーへの個別避難計画作成の協力依頼の際、大変役立った。

【参考にした他市町村、関係団体等の取組】

- ・兵庫県明石市の「個別避難計画の様式」(当市バージョンにアレンジし活用中)
- ・塩竈市の「個別避難計画作成事業に関する実施要綱」(今後要綱作成にあたり参考とする)

【個別避難計画1件を作成するのに要した時間等】

	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
のべ人数	0	5人	5人	5人	5人	5人	5人
のべ時間	0	10h	10h	10h	10h	10h	10h